

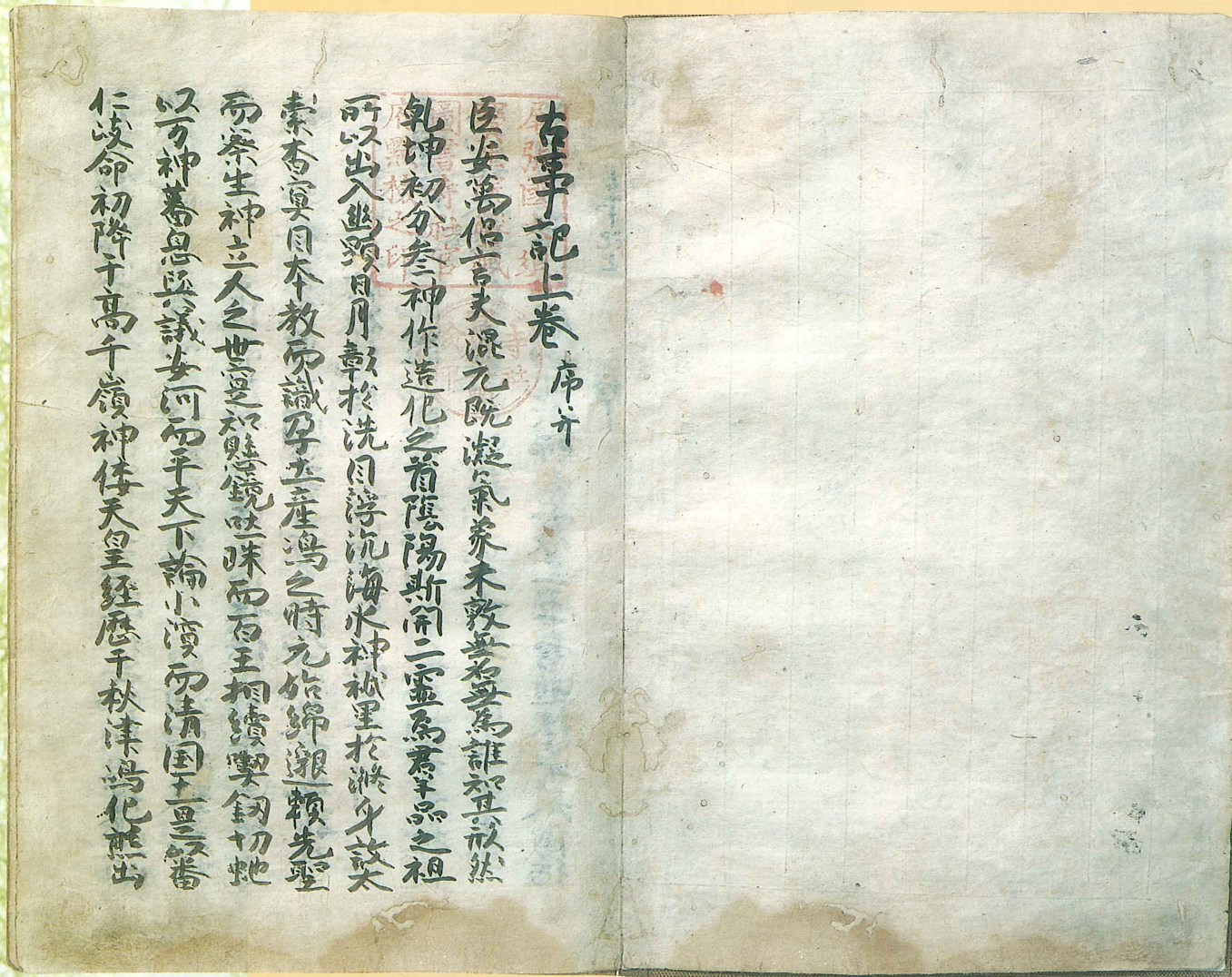


GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2002-2003

8月 ガバナー月信

No.2

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760 2002年8月1日発行



古事記

8月は、会員増強および拡大月間です。

ロータリー・マジック	2	地区協議会報告	10
ガバナーメッセージ	4	研究グループ交換 (GSE) 派遣メンバー募集	15
拡大月間に寄せて	5	会長賞、会員増強・拡大賞	16
『座談会』ロータリーの活性化は、会員増強から	6	文庫通信	17

国際ロータリー第2760区 ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内

TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023 E-mail : governor02-03@rotary2760.org

ROTARY MAGIC

ロータリー・マジック

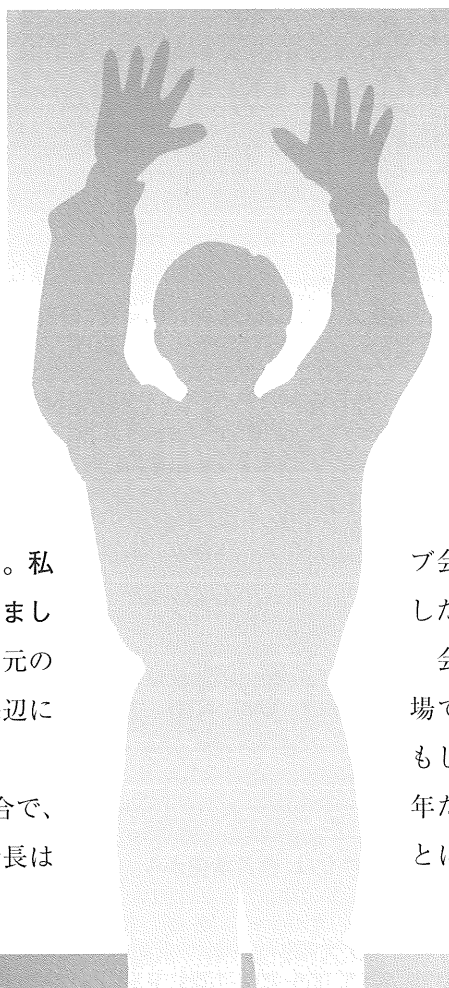
－ 慈愛の種を播きましょう －

R I 会長ビチャイ・ラタクル氏の講演抜粋要約
(2月国際協議会にて)



私はもう43年以上のロータリアンですが、奉仕に直接参加しなければ、誰も真のロータリー・マジックを体験しないと申し上げることができます。何年も昔、私が初めてロータリーに入会した頃、私は良きロータリアンであることを誇りに思っていました。会費はいつも遅れずに納め、出席率は100%でした。ところが、後で考えてみると、実際は、1年以上私は全く真のロータリアンではなかったのです。私はあらゆる奉仕の機会を自ら避けていました。ある時、たまたま私のクラブが地元の母子家庭の少年たちをつれて週末に海辺に行くことを計画していました。

そして、その週末の前の水曜日の会合で、クラブ会長が会員に懇願しました。会長は



お金でもなく、寄贈物資でもなく、私たちの協力が欲しかったのです。少年たちを車で海辺まで連れていき、そこで彼らと一日を過ごす会員が最も必要でした。しかし私は会長の要請に対して頭も上げず、協力の手も挙げず、この時もまた、奉仕への呼びかけを避けることができたと思っていました。ところが金曜の夜になって、私の自宅に電話がかかりました。それはクラブ会長からで、彼はパニック状態のようでした。

会員の参加予定者の一人が、最後の土壇場で、急に行けなくなったというもので、もし、代わりが見つからないと何人かの少年たちが海辺に行けなくてがっかりすることになります。そのころの私にとっては、

仮に少年たちががっかりしたところで、どうということはなく、自分の週末の方がもっと大事でした。しかしクラブ創立間もない私たちのクラブが同じ町の反対側にある、もっと歴史のあるロータリー・クラブに対して面目を失うようなことになって欲しくなかったので、私はしぶしぶ手伝うことを約束しました。

こうしたいきさつで、翌日の朝、私は貴重な土曜日を、喜びに胸を弾ませた少年たちと過ごしました。しかしまもなく私はそのうちの一人の少年を不快に感じ始めましたが、他の少年たちも誰一人彼のことを好いていないのに気づくと、そこで自分の気持ちを正当化できました。その少年は痩せていて、引っ込み思案で、一風変わっていました。そして宿命とでも言うのでしょうか、この少年は私を気に入って、私にくっついてくるのです。私が振り向くと少年はいつもそこにいました。私は彼があっちに行ってくればいいのに、そして早く一日が終わってくればいいのにと、心の底から願っていました。

しかし午前中、時が経つにつれて、私はなぜこの小さな少年が私の気にさわるのか自問し始めました。すると答えが浮かんできました。この少年は私を必要としているのだ！ 自己中心的な私の心の中で、一つの命が変われば、世界が変わるという認識が生まれました。私にそんなことができるのだろうか。この一つの命が私を変えられるだろうか。そして私は、何かをしたい人間は、言い訳ではなく手段を見つけ出すのだと思い起こしました。そこで私は、この子供のニーズを満たす方法を見つけたいと考えました。

簡単なことです。二人乗りの良いカヌーを見つけたら、昼食時に彼がみんなとすぐ並べられるよう列の良い場所をとってあげたり、彼が少し奇妙で、他の子と少し違うからと言う理由でのけ者にされたりしないように気を配ってあげたりしました。あの手この手を使って奉仕への参加を逃れようとしていたはずでしたが、この日が終わらなければいいのにと願っている自分に気づきました。私は生まれて初めて、他人のために何かをする喜びを実感しました。

帰りの車の中で、私はこの少年が一番前の私の隣の

席に座るようにしました。それほど多くの言葉は交わしませんでした。私たち二人は共に良い心地でした。到着すると子供たちは自分の濡れた水着やタオルや服をつかんで、家の中に入っていました。しかし、私の小さな友達はいりませんでした。彼と私は暗がりの中にたたずんでいました。暗かったのが幸いでした。その時私の腕をきつく抱きしめ、「あなたが私のお父さんだったらいいのに」という小さな声を聞いて、目が涙で潤むのを止められませんでした。誰にも見られなくてすみませんでした。

あなた方全員が奉仕に参加した喜びを直に体験しておられることを、私は疑いません。しかし、奉仕プログラムに自ら積極的に参加なさったのは、もうずいぶんと前のことかもしれません。私たちは皆、優れた指導者は手本によって導くということを知っています。ですから、今年は再び奉仕に参加する絶好の年です。私がこの話をしたのにはもう一つの理由があります。あのクラブ会長のことを考えてください。彼がどのような思いを抱いていたか想像できますか？

金曜日の夜に、私の自宅に電話をかけて嘆願し、断られ、次の会員に電話をかけ、誰か見つかるまで電話をかけ続けたのです。さて何が彼にこの強さを与えたのでしょうか。それはロータリーを信じる心です。この会長は、人々に参加させることさえできれば、マジックが起こることを知っていたのです。一人の子供によって私の人生は変わりました。自己中心的な人間の心を目覚めさせるのに、幼い少年一人で十分だったのです。奉仕への直接的な参加を推進し、全身全霊を込めてロータリアンが直接参加できるあらゆる機会を支援してください。そしてあなた自身も参加してください。

(文責 田中作次)

Governor Message

ガバナーメッセージ

ガバナー 岡部 快圓

会長さん、幹事さん、お元気ですか。新年度が始まり、クラブの例会、理事会のあり方、クラブアッセンブリー、地域に対する奉仕活動等慣れぬ中で悪戦苦闘してみえることと思います。又、ガバナー補佐の訪問、ガバナーの公式訪問の準備など頭の中からロータリーが消えることがない状況が続いていることと存じます。どうぞ困った時には、ガバナー補佐さん地区委員さんに気楽にご相談下さい。



本年度私が一番重点を置いていることは各クラブの活性化です。ロータリーの仕事をするのはR I 会長でも、R I 理事でも、ガバナーでもガバナー補佐でもありません。各クラブが自主的に目標を設定し、その目標に向かってクラブ一丸となって奉仕活動に邁進することでクラブ内の親睦が保たれ、地域社会に大いに貢献でき、地域で評価されクラブが活性化したいと思います。その為には新しい目標を設定し実行に移す勇気を持って下さい。新しい目標を設定する情報を必要とされるクラブは、地区の委員会にご相談下さい。地域社会の奉仕活動をお望みのクラブは地区の社会奉仕委員会へ相談して下さい。奉仕の事例、その方法、資金の規模等気軽に応じて頂けます。奉仕の資金が不足しているクラブは地区ロータリー財団委員会にご相談下さい。CAP、マッチンググラント等財団より資金援助が受けられるプログラムを紹介していただけます。例会のあり方を模索してみえるクラブや卓話者の選定に悩んでみえるクラブは地区のクラブ奉仕委員会へご連絡下さい。卓話者のリストを作成しますのでその提供を受けることが出来ます。WCS、青少年交換にチャレンジされるクラブは地区の国際奉仕委員会へご相談下さい。援助を必要としているプロ

ジェクトの種類、必要物資、運送の方法等詳しい情報提供を受けられます。又、青少年交換のホストファミリーの役割、クラブ例会における学生への接し方等親切的な指導が受けられます。米山奨学生を受け入れ、クラブの雰囲気を変え、活性化を図りたいクラブは地区米山奨学委員会へご連絡下さい。受け入れに必要な条件、顧問ロータリアンの選定等相談に応じて頂けます。会員増強について困っているクラブは地区会員増強委員会にご相談下さい。

今月は特に「会員増強および拡大月間」ですので、地区委員さんの卓話、女性委員さんによる女性会員の増強についての情報提供を受けられます。新世代に関して、ローターアクト・インターアクトに関心をお持ちのクラブは既存のクラブの会員減少が顕著なので推薦をお願いいたします。ライラについては受講者の候補者リストを作成中ですのでご相談下さい。

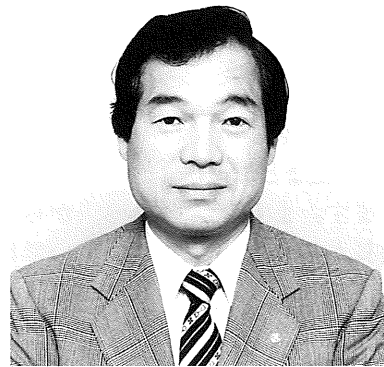
地区委員会にはR I の最新情報と長年培った地区内クラブの多くの情報が蓄積されています。この情報を大いに利用し、新しいプロジェクトに挑戦し、慈愛の種を播いていただき多くの方に喜びを与えて下さい。

地区委員会委員長はじめ各委員さんには、各クラブへの懇切丁寧な支援をお願いしてありますので、各クラブ委員さんは気軽にコンタクトを取っていただき親密な関係を築いてください。

公式訪問の折には、友人として、応援者として、相談相手として訪問させていただきますので、お会いできる日を楽しみにしています。

ご挨拶

拡大月間に 寄せて



拡大委員会 委員長 野崎洋二

永い不況が続く現在の社会情勢が、私たちロータリーの活動に大きな影響を与えていることは皆様ご承知の通りであります。現在当地区には78のロータリークラブが存在いたしますが、多くのロータリークラブでは、会長、幹事そして会員増強委員会を始め関係者の方々が会員減少に頭を抱えておられます。このような現状の中で拡大を図るということは大変な事であり、果たして実行できるのか甚だ不安に感じている次第であります。しかしながら、国際ロータリーとしては、拡大は基本的に必要事項であって、拡大がロータリーの発展、地域社会の活性化につながる事は当然であります。私ども地区拡大委員会は、地区ロータリーの将来に向かっての一層の発展を願い、その任務を全うすべきであると考えます。

つぎに、ロータリーの拡大であります。いろいろなケースがあろうかと存じます。

- (1) 既存ロータリークラブの周年記念として、子クラブを設立させる。
- (2) 既存ロータリークラブの会員増強に伴い、クラブを分割する。
- (3) ロータリークラブの存在していない地域に、新

クラブを設立させる。

- (4) 女性会員の増強も目立つようになっており、新たに女性会員向けの新クラブを設立する。
- (5) 来る2005年に開催が予定されている〈愛知万博〉に因み、それを記念すると共に、会場となる青少年公園に「ロータリー館」を建てる計画が進んでおり、これを機会に、新クラブを設立する。
- (6) その他（地域分割、二階建て、三階建て、など）

私どもはこれらの事項についてよく検討すると共に情報収集に努め、岡部快圓ガバナーのご指示に従い、新ロータリークラブ誕生に向かって活発な委員会活動を展開していこうと思っております。

本年度国際ロータリー・ビチャイ・ラタクル会長は私たちロータリアンに「慈愛の種を播きましょう」と呼びかけられておられます。私たちはそのテーマの意味を良く理解し、播いた種が新クラブ誕生という素晴らしい花を咲かせてくれますよう夢見て止みません。

ロータリアン各位のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

会員増強委員会座談会

テーマ



「ロータリーの活性化は、会員増強から」

出席者 委員長：光岡 朗、副委員長：飯島 卓
委 員：菊岡深智子、津川 聖子、大橋 誠之
進行係：地区副幹事 岩崎 征一、浅井 隆宣
(以下、敬称略)

司会 皆さん、これから会員増強委員としての新しい活動が始まるわけですが、8月は「会員増強および拡大月間」です。そこで本日は、会員増強についての委員会の方針や皆さんのご意見など、忌憚なくご発言いただきたいと存じます。まずは過去の経過や現状など、光岡委員長からお話しいただけますでしょうか。

光岡 まず簡単に申しますと、過去2年間のお話ですが、メンバーは4、5名しかおらず、すべて委員長にお任せするという具合でした。ただ今年度から全員で19名となり、従来のようなやり方では地区委員を生かすきれないと思ひましたね。やはり全員参加の委員会にすべきだろうと、まずは幾つかのグループ分けをして議論する場を持つ方向で進めている段階です。

飯島 委員長のおっしゃる通り、僕も従来の方法を変えるべきだと痛感しています。やはり19名という数からも、いかにこの委員会に力が注がれているか。それを思うと冷や汗も出てきますが、僕自身はとにかくメンバーを集めればいい、というものではないと思うんです。まずは人が自然に集まる、楽しいクラブにすることが先決じゃないでしょうか。無理な会員増強はかえって退会者を増やすことにもつながりかねません。メンバー各自が会員増強に関心を持てるよう努

力することが、我々の使命じゃないかと思ひます。クラブごとに性格も異なりますし、我々が「こうしなさい」と増強を押しつけても意味がない。まずはそれぞれが楽しくクラブ運営をしながら、全員参加で無理なく取り組むべきじゃないでしょうか。

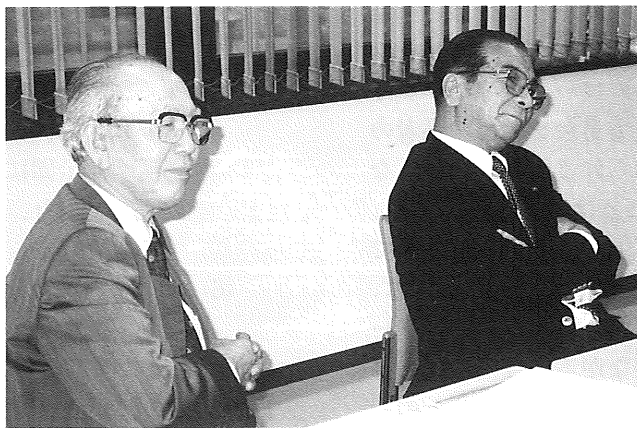
菊岡 会員増強については、質より量、量より質、というお話をこれまで繰り返し耳にして参りましたが、まさに今、その問題に直面しているわけです。私は中部地区初の女性ロータリアンです

が、2760地区最多の、14名の女性会員を持つ名南ロータリーを代表して申し上げますと、女性に間口を広げるのは本当に良いことだと思います。女性の職業もさまざままで起業家の方も大勢いらっしゃいます。ただ、男性と比較すると規模が小さいんですね。ですから、お声を掛けても「自分の代わりがない」「ロータリーなんて余裕はない」と、そのよう

なお断りの返事がほとんどです。まずはご入会いただいて、奉仕活動の素晴らしさをご理解いただければと思うのですが、その辺りに難しさがあるようです。私自身もロータリアンになって心から良かったと思ひえるまでに5年かかりましたから。

司会 菊岡さんはロータリアンになられて何年ですか？

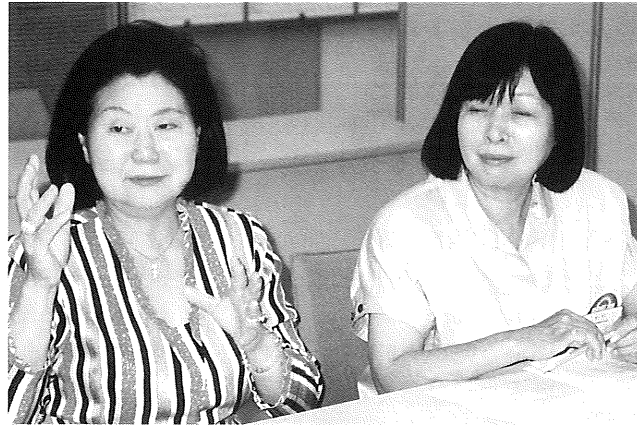
菊岡 今年で12年目です。最初は、奉仕の理想とか、



ロータリーが具体的に何であるか理解できなかったんです。ただ、無理にでも仕事のスケジュールに組み込みながら、欠席を少なくしていくうちに次第に分かるようになりました。やはり先輩方のお話も回数を重ねるほど理解できるようになるものです。ですから会員増強は重要ですが、最初からあまり難しいことを言う必要はないと思うんです。ロータリアンになり例会に出席すれば、仕事への活力や人生にプラスになる“いいもの”を貰って帰れるんですよ、と伝えてあげる。そして委員長も「全員参加」とおっしゃいましたが、人まかせにしないで自分で何か役割を持つこと。皆さん、素晴らしい方ばかりですから、きちんとお出来になるんです。そういう自分たちのロータリーなんだという意識づけも、増員につながる大きな要因じゃないかと思います。

司会 津川さんも名東ロータリーで、初の女性会員でいらっしゃいます？

津川 はい。まだ入会して6年です。私はタレント事務所をやっておりますが、所属する約150名のうち9割が女性なんです。ですから女性の考えはある程度理解できるのですが、ロータリーについては、ま



だ本当の意味で理解できておりません。ただロータリー財団の委員長をお引き受けした時の講習会で、「寄付とは強制されるものでなく、自分のために、自分が理解した上で出すものだ」とレクチャーを受けました。その時、初めてロータリーというものの意識をしっかりと掴めたんじゃないかと感じました。この委員会で私に何が出来るかはまだ分かりませんが、真っ白な気持ちで取り組みたいと思います。会員増強ももちろんですが、退会される方をできるだけ食い止める。それは女性だけ集まって、今まで同じような席に座っていたのを、毎日違った席に移動するなど、自分なりに考えて行動しながら退会防止に努めていこうと考えております。

大橋 まず委員会としては、「会員増強」「現会員の減少」の両面から考えなければならぬと思います。そこで原因を考えてみますと、一つは経済的状况、そしてもう一つはロータリー自身の魅

力があります。やはり1クラブ1業種というルールがあって、職業は主、ロータリーは従です。主がしっかりしていなければ従もできません。ですから主ができないがゆえに退会されるのは仕方のないことと思います。残念なのは主が充実していながら、各クラブの魅力がなくて、あるいはクラブとの距離感があって、ロータリー活動から遠のいてしまうことです。入会して以来、僕自身、ずっと申し上げていることがあるのですが、それは「例会に参加するのは、例会に来る人たちの笑顔が見たいから」ということ。と申しますのは、僕にとって皆さんの笑顔が一週間の活力になるんです。また、ロータリー活動を通して見られる笑顔は、その方々の最高の笑顔だと思います。例会に出れば、そんな笑顔に出会えて自分のプラスにもなるわけです。じゃ僕は何をすべきかといえば、同じよう

に一つでも多くの笑顔を見せなくちゃいけない。その繰り返しでどんどん輪が広がるんじゃないかと思うんです。主が忙しくて委員長はダメだと誰かが言えば、「OK！今回は俺が頑張るから」と。そうした関係を築き上げれば、お互いの距離も近くなるんじゃないでしょうか。個人レベルの話かもしれませんが、皆さんの笑顔が見られることで自分

も笑顔を見せて、次のクラブライフにつながれば幸せなことだと思います。

司会 皆さん、それぞれに問題意識をお持ちでいらっしゃいますが、今後、会員増強委員会としてはどうアクションを起こし、どう成果を上げていきたいと思われそうですでしょうか。

光岡 私自身、会計士という職業柄、かつて「会員増強は企業でいえば売り上げと同じ」と表現したことがあります。やはり売り上げがなければ衰退していくのは同じで、ロータリーも増強によって活性化しなければ減びてしまう。刺激を受けていかなければ一人よがりになるんじゃないかと思います。そんな理由で今回、「ロータリーの活性化は、会員増強から」というテーマをRIへ提案しました。また現在、2760地区の会員数は6,000名弱と伺いましたが、確か十年前から同じような数字だったと思います。改めて危機感を感じないではられません。や

はり大橋さんもおっしゃったように、ロータリーの魅力がなくなったのが原因かもしれませんね。私の若い頃はロータリアンになることに誇りを感じていたし、憧れもあったんですよね。今はどうなのでしょう？

菊岡 憧れを抱かせるような情報発信のされ方は、今はない気がします。もちろん、物質的なことではありませんが、「ロータリーに入ると何かプラスになるの？」と聞かれ、私も自信を持って答えられないことが情けないです。「和気藹々と奉仕活動をしています」と答えるのが精一杯で、説得力に乏しいですね。

司会 考えてみますと、現在の6,000人のメンバーはどんな気持ちで入会されたんでしょう？

光岡 結局、どなたかに誘われて、というような、ちょっとしたことだったんじゃないですか。私も



光岡 朗

本拠地は名古屋ですが、縁があって「あまクラブ」に所属しておりますし、やっぱり人とのつながりというのは大きいですね。

菊岡 私も最初、お誘いいただいた時は本当にびっくり

したんですよ。それまで同友会だとか、丸八会などは、ずっと女性という理由で断られていたものですから…。やっと女性にも門戸が開かれたんです。

司会 ごく単純に考えれば、6,000名の会員がほぼ男性だとすれば、同数の女性会員がいても不思議ではないですね。

飯島 実はウチのクラブは女性会員がまだゼロなんです。ただ去年ぐらいから、女性も入れるべきだ



飯島 卓

と提案しておりましたら、少しずつそういう空気に変わってきましたね。じゃあどうすれば女性に入会してもらえらるだろうか。1人では難しいだろうから、仲間を作っておけるべきだろうか。最近、そんな具体的な議論が交わされるようになったところです。

津川 たとえば、そこまで考える必要はないかもしれませんが、どんな用件であっても男性会員と一対一で会うのは止めておこうとか、若い女性会員が入っても疎外感を与えないよう配慮しようとか、そういう気遣いをされたことはありませんでした？

菊岡 皆無ですね。私どものクラブでは最初から4名同時に入りまして、そのせいか男性も抵抗感がなかったようです。また男性は例会後、飲みに行かれる方もおりのようですが、女性の場合、ほぼその場で解散します。特に夜間例会で



菊岡深智子

すし、女性にはそれが良いのかもしれませんが。それから家族会で奥様が大勢いらっしゃいますが、私どもの女性会員が大切にしていることは、奥様と仲良くすることなんです。ご主人が忙しくて不参加でも奥様だけでも気軽に参加していただけますし、変な誤解もされません。

司会 ところで男性会員の逆ですが、家族会にはご主人も参加されるんですか？

菊岡 ええ。ただロータリアンではありませんし、以前、出席したところ、もう嫌だと言われてしまいました。ですが私には息子が2人おりますので、40歳を過ぎたら入れようかと思っています。ただ母親と同じクラブは嫌がってますし、どこかのクラブでお世話いただけると…

津川 先程の家族会のお話ですが、私も少しずつ奥様たちと仲良くなって、それから男性、女性と区別なくお付き合いできるようになりました。ウチもロータリアンではないですし、家族会にもまだ参加したことはありません。

菊岡 実は私どものクラブは、ハワイのサンセットクラブと提携していますが、あちらには夫婦会員というシステムがあるんです。家族会員として

年会費もお安いんですね。日本ではどうなんでしょう。そういうケースを聞いたことはないですけれど。例会にもご夫婦で参加されて活躍されています。

飯島 僕もご夫婦ともにロータリアンという方を知っていますが、ただ別々のクラブなんです。同一クラブというケースは日本ではないでしょう？

大橋 僕の所属する名駅ロータリークラブは今年で12年目を迎えますが、3年前に初めて女性会員が入ったんです。その時には賛成派と反対派、二派に分かれたんです。「女性を入れるなら退会する」とまでおっしゃった男性会員もおられました。僕自身は女性会員が男性と同数の6,000名いて不思議ではない、という先程のご意見に同感ですし、女性が入ることによってどんな変化があるのか興味を持っていました。結局、その女性の入会が決まり、入会の挨拶で「私を女性として扱わないでください。私は、一ロータリアンです」とおっしゃったんです。なるほど、けだし名言です。さすがにその方はすでに委員長になりましたし、女性がいるならと、続いてご入会いただきました。最初のきっかけを掴むことは難しいです。ご夫婦を考えることも大切かもしれませんが。しかし男性も女性も、どういう関係であってもロータリアンとして仲間を増やすことはできると思います。先程「男は優しい」というご意見もありましたが、女性にだって当然、優しさはある。男性と女性、難しい部分もあるでしょうが、今後、女性に門戸を開ける、という言い方ではなく、お互いにその優しさを出し合いながら魅力あるロータリークラブにしていく、というスタンスでいいんじゃないでしょうか。

津川 私の時もかなり反対された方があったと聞きましたが、フタを開けてみたら、皆さんとてもご親切でした。

大橋 結局、ウチではその2名の方が入られたことで、女性のネットワークも広がりましたし、会員増強という面だけでなく、あらゆるチャンスも増えてくると思います。



津川聖子

菊岡 実際のところ、一委員として具体的にはどう活動すべきでしょうか。

飯島 やっぱりクラブごとに性格も違いますね。「こうしなさい」と具体的な方法を伝えるわけにもいきませんが、ただ委員として他クラブの方にお話しすることで、少なくとも自分自身、再確認できるというのは感じております。

大橋 先程の女性を入れるか入れないかで議論した時に、女性会員のいる他クラブはどうか、状況を知りたいという意見が多く出たんです。ですからたとえば、女性メンバーに来ていただいてお話を聞かせていただくのも大きなきっかけになると思うんですが…。

大橋 冒頭、光岡委員長も議論を重ねながらとおっしゃいましたが、各クラブの増強に対する問題点や希望、あるいは他クラブは何をやっているか、皆さん興味があると思うんです。また、各ク



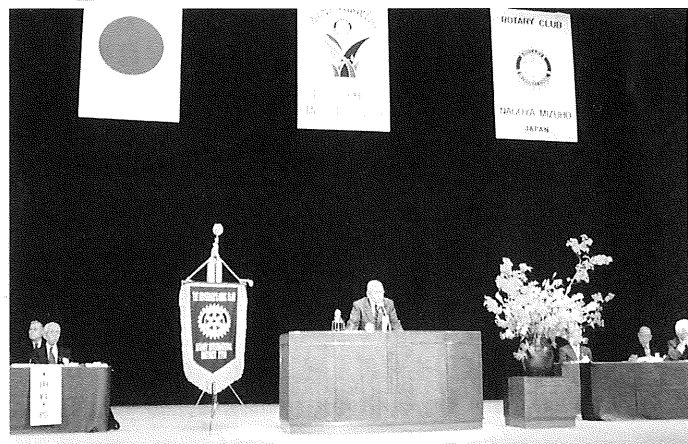
大橋誠之

ブが知恵を出しながら、それぞれに素晴らしいシステムを構築しているわけだから、それを活用しない手はないでしょうし、そうしたアイデアを交換する場を設けるべきだと思います。

光岡 では全体の会議の時に、皆さんが思っていられること、ご自身がどういう経緯で入会されたかなどを積極的にご発言いただいて、増強につながる具体的な活動へ結びつけたいと思います。やはり一年後には素晴らしいものにして次へバトンタッチできるよう、19名が会員増強のために全力を尽くし、各分区の増強委員長さんに訴える。そしてまた、その増強委員長さんにも燃えていただいてロータリーの輪をどんどん広げていけたらと思います。

2002～2003年度のための 国際ロータリー第2760地区

地区協議会開催



日 時 2002年4月13日(土)
会 場 名古屋国際会議場
(名古屋市熱田区熱田西町1-1)
ホストクラブ 名古屋瑞穂ロータリークラブ



地区協議会は、クラブ指導者が毎年7月1日に、交替するにもかかわらず、その前後をつないでロータリーの奉仕プログラムを、継続して行えるように、次期クラブ指導者の方々にお集まり頂き、教育し、知識を与え、激励する目的で行われました。

第 1 分 科 会

リーダー	ガバナー	太田賢太郎
アドバイザー	ガバナーエレクト	岡部 快圓
	ガバナーノミニ	豊島 徳三
アシスタントリーダー	地区幹事	藤井 克己
	直前地区幹事	伊藤 鶴吉
	次期地区幹事	伊藤 宏
	次期地区会計長	加藤 正樹
	次期地区財務委員長	内藤 耕造
	次期地区監事	横内 恭
	次々年度地区幹事	瀧 義孝

13時開会、リーダー、アドバイザー、アシスタントリーダー紹介の後、太田賢太郎ガバナーよりご挨拶を戴き、続いて岡部快圓ガバナーエレクトが地区運営方針、ロータリーの世界及び地区の実数を上げての解説を含めたご挨拶。

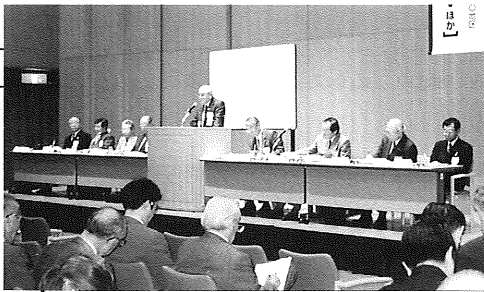
加藤正樹次期地区会計長より次年度地区予算案説明、内藤耕造次期財務委員長より所見を戴いて後、

審議の結果承認されました。

審議の中で、国際博の資金使途について、半年で撤去する施設に莫大な金額の支出が適切かとの質問が有り、太田ガバナーがこれにお答えになりました。

藤井克己地区幹事より、地区委員会の情報活用について、また、内藤耕造、伊藤鶴吉、両地区幹事経験者よりワンポイントアドバイス、豊島徳三ガバナーノミニより、次々年度の抱負をお聞きしたのち、ガバナー講評を戴きました。





第 2 分 科 会

リーダー	次期地区クラブ奉仕委員長	片山 主水
アドバイザー	パストガバナー	石川 和昌
アシスタントリーダー	次期南尾張分区ガバナー補佐	稲山 達弘
	次期地区拡大委員長	野崎 洋二
	次期地区会員増強委員長	光岡 朗
	次期地区広報副委員長	石垣 昭快
	次期ロータリーの友地区委員	杉本 英夫
	次期インターネット委員長	浅野 彰
	次期地区副幹事	岩崎 征一

●石川和昌

クラブ奉仕の哲学・原理について言うならば、我々がいつも目的としている「四つのテスト」と「ロータリーの綱領」がその哲学といえます。益々ロータリーを魅力あるものにするために皆さん方といっしょに勉強しましょう。

●片山主水

第一に新入会員の入会式を楽しいしっかりとしたセレモニーとして実行して下さい。第2に会員の皆さん方への研修の場を多く作って下さい。第3に会員の懇親の場を多く作って下さい。

●野崎洋二

既存RCの周年記念として子クラブの新設、既存RCの会員増強による分割設立等が考えられます。本年は最低1クラブ、最高6クラブを目標とします。

●光岡 朗

クラブの活性化は会員増強から始まります。我々委員会の活動を活発に行うことから始めます。

●石垣昭快

ロータリー広報活動は社会的に広く知ってもらうことから理解が得られると思います。我々岡崎RCでは、新聞、ラジオ、TV、あらゆるメディアをつかって、長年にわたって広報活動を行ってきました。

●杉本英夫

「ロータリーの友」は大変重要な情報誌です。あらゆる分野のロータリーの活動が読むほどに、自分のためになると考えられます。

●浅野 彰

インターネットの現状は、すでに小学校6年生あたりにありますと、ほとんど子供が扱います。我々世代のロータリアンも本年度はインターネットを実行する年度として活動しましょう。

第 3 分 科 会

リーダー	次期地区職業奉仕委員会	関口 宗男
アドバイザー	パストガバナー	神戸 政治
アシスタントリーダー	次期東尾張分区ガバナー補佐	太田 達夫
	次期地区職業奉仕副委員長	伊藤 信吾
	次期地区副幹事	草野 勝彦

●神戸政治

職業奉仕委員会はロータリーの委員会の金看板です。しっかり勉強していただきたい。

●伊藤信吾

今日はロータリーの理論面の勉強をして下さい。職業奉仕と職業奉仕委員会との違いを理解していただきたい。

●関口宗男

「ロータリー職業奉仕を理解するために」の小冊子に基づく話があった。ロータリーは例会が大事であり、そこで心を磨き、親睦、アイデアの交換、精神的相互援助をし、それを職業を通じて生かしてお

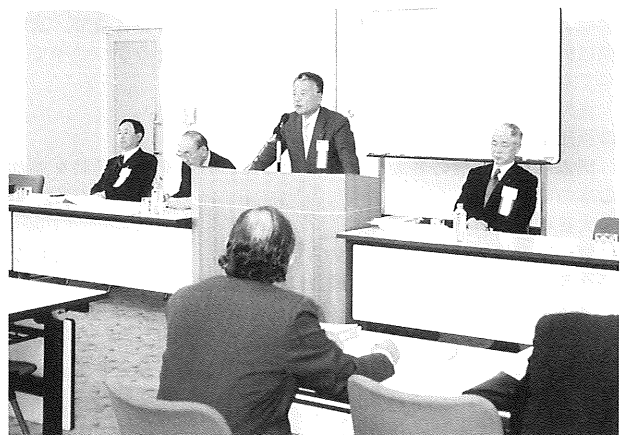
くことが職業奉仕と考えていただきたい。

●太田達夫

職業奉仕委員会の活動は啓蒙活動が基本である。

●神戸政治 講評

私は3年続けてアドバイザーをしているが、今回が一番充実していた。I serve, We serveの違いもはっきりしてよかった。



第 4 分 科 会

リーダー	次期社会奉仕委員長	園原宏治
アドバイザー	パストガバナー	松本 宏
アシスタントリーダー	次期西三河中分区ガバナー補佐	伊藤泰司
	次期地区環境保全委員長	国分孝雄
	次期地区RCC委員長	川井健二
	次期地区副幹事	藤田 澈

●松本宏

社会奉仕の歴史は、恵まれない人に対する人助けや励ましという形のささやかな慈善事業に過ぎませんでしたが、計画的組織的な活動へと発展して、今日の光の当たらない人達に光を当てる実践活動に成りました。今後の社会奉仕活動の主流は、世界社会奉仕活動に進む事が想定されます。

●伊藤康司

地区3委員会と各クラブの委員会活動が密接な関係を保つことにより、迅速な情報の提供・交換を可能し、更に地区の懇切丁寧なサポートにより効果が

る活動と成ります。

●園原宏治

“I serve”から“We serve”

そして“Let us serve”と奉仕は拡大しました。奉仕の機会に関する9項目－危機化の児童～識字・計算能力の向上－と当地区事業実績を参考に活動を展開下さい。

●国分孝雄

各クラブ員が環境保全意識と理解を深め、本年も更に充実され継続発展されますようお願いします。

●川井健司

RCCとは、自分の住む地域社会の限定された生活圏内で志を同じにする者と共に、共通のニーズに対してプ2760地区は全国27グループ中11グループを占めております。



第 5 分 科 会

リーダー	次期地区国際奉仕委員長	須賀 康夫
アドバイザー	パストガバナー	盛田 和昭
アシスタントリーダー	次期西三河分区ガバナー補佐	原田慶三郎
	次期地区国際奉仕副委員長	安井 隆豊
	次期地区青少年交換委員長	大谷 和雄
	次期地区世界社会奉仕委員長	榊原 正治
	次期地区副幹事	横井 衛

●須賀康夫

国際奉仕委員会は、ロータリーの中でロータリーらしい委員会ではあるが、各クラブの活動は温度差が大変ある委員会で、次年度は何とか国際奉仕・青少年交換・世界社会奉仕の3つの中で1つでも行動を起こしてもらいたい。

海外との姉妹関係等のアンケートの調査のお願い。

●原田慶三郎

国際奉仕委員会の各委員長は、職責において十分な活動をされる事の要望。

●大谷和雄

青少年交換の活動を行っているクラブと、一度も活動していないクラブがあるので是非この機会に行動してもらいたい。

青少年交換の受け入れの際、補助金4万円が出ている経過報告。2003～2004交換学生募集要項について詳細な説明。

前年度は8名しか派遣していないので多数の応募を要望。目標は倍増16名であること、受入学生についての活動説明。

●岡部ガバナーエレクト

新しい奉仕活動を行う時期であり、地区の情報源を利用してチャレンジするよう要望。

●榊原正治

WC S活動は、地区対地区・クラブ対クラブの活動が基本である。クラブ独自で活動するための援助プロジェクトのための情報のお手伝いを致します。

今まで行ってきた奨学資金は昨年度で打ち切り基金の収支管理だけである。

2760地区の過去10年分の世界社会奉仕活動の推移説明。

WC Sを成功させるための点検表についての説明。

クラブWC S活動について質問書の説明。

●横井 衛

アメリカからの交換学生からの手紙を通して、青少年交換の素晴らしさを知ってもらい是非、青少年交換活動の協力要請。

※フリートーク

質疑が活発にありWC S活動地区の現状、交換学生についての条件等についての説明、またタイに日本人だけのロータリークラブがあり情報交換に適当であるので利用すると良いとの報告。

●盛田和昭パストガバナー 講評

ロータリーの基本は引継ぎ事項だけでなく各委員長の思ったことを行動に移すこと、またクラブが主体でありRI直結であることを認識して地区はお手伝いする処であるとのこと。

特に日本ではWC S活動は大変大切であり、是非活発に活躍されるよう、激励がありました。



第 6 分 科 会

リーダー	次期地区新世代委員長	保浦文夫
アドバイザー	パストガバナー	福田清成
アシスタントリーダー	次期東三河分区ガバナー補佐	本多克弘
	次期地区インターアクト委員長	瀬 康彦
	次期地区ロータリーアクト委員長	加藤康治
	次期地区ライラ委員長	松井善則
	次期地区副幹事	堀江英弥

保浦文夫新世代委員会活動方針

いつの時代にあっても新世代の健全育成は永遠のテーマである。

ガバナーの地区運営方針「新世代に思いやりの心を」を地区新世代委員会の活動方針とします。

1. 地区内クラブへの迅速なサポート
2. 新世代への思いやり
3. 地域の伝統、文化を後世に継承しよう
4. 地域に密着した奉仕活動

岩瀬康彦委員会活動方針

1. 地区インターアクトクラブ活動の活性化。
2. 各クラブ同士の情報交換を密にし、相互交流の機会を充実。

3. 海外研修の意義を再認識し、一層の充実を図るとともに、研修地インターアクトクラブとの交歓・協働の機会を設ける。

4. 活動環境の整備を一層促進するために、地区委員会・スポンサーロータリークラブと各インターアクトクラブ顧問教師の意見交換の場を設け、円滑なクラブ活動が促進されるよう努力する。

加藤康治委員会活動方針

ロータリーアクト・プロジェクトには「専門知識開発」「指導力の開発」「奉仕プロジェクトの開発」の3つがある。これらの諸活動に参加し、必要な支援・指導を行う。

松井善則委員会活動方針

過去10回のライラセミナーの伝統と評価を重視し、各クラブ、ホストクラブ、地区委員会、参加する若者達との連携、情報交換し、若い人たちに広くプログラムを理解頂き、協力を頂く。また「ライラ友の会」を地区ライラ委員会の事業活動の一環とし、インターネットを駆使して11年目の新たな時代に相応した委員会活動を行なう。



第 7 分 科 会

リーダー	次期地区ロータリー財団委員長	石川 敬
アドバイザー	パストガバナー	野村 重彦
アシスタントリーダー	次期東名古屋分区ガバナー補佐	細野 恭弘
	次期地区財団奨学副委員長	石田 正城
	次期地区財団学友委員長	鈴木 薫
	次期地区恒久基金委員長	本多 敬一
	次期地区研究グループ交換副委員長	矢形 修己
	次期地区ポリオプラス委員	松野 一彦
	次期地区副幹事	吉田 隆彦

開会にあたり、まず「ロータリー財団の国際的ビジョン」をビデオにてご紹介した。

●野村重彦

専門的な知識が要求される委員会であるが、財団の委員の方々の活躍がロータリーの花であり、ボトムアップの奉仕活動をお願いしたい。

ロータリー財団は寄付のイメージがあるが、車の両輪のごとく、資金調達（寄付）と皆さんの奉仕が両輪である。

●石川 敬

「ロータリー財団の概要」に基づき、財団の活動にはポリオプラス等の人道的プログラム、国際親善奨学金等の教育的プログラム、研究グループ交換の文化交流プログラムがある。ポリオプラスは昨年の同時多発テロの影響で資金不足となり、危機的状況に変わった。また、財団寄付はメンバー1人あたり100ドル、11月はロータリー財団月間、10月、11月の卓話のプログラムに入れて

頂き、各クラブを訪問、PRをしたい。

●石田正城

財団奨学金の目的は国際親善にあり、応募資格の説明等があった。

●鈴木 薫

資料「ロータリー財団の学友とは」に基づき、毎年5月の学友会の総会をはじめ説明があった。

●矢形修己

研究グループ交換（GSE）はRIの財政の都合で隔年の受入となり、岡部年度はオーストラリア9520地区への派遣となっている。

●松野一彦

ポリオプラスは国際ロータリーで8,000万ドルの調達が必要となり、期限付きのキャンペーンが始まり、メンバー1人あたり150ドルの特別寄付を目標とする。

●本多敬一

恒久基金は本年度将来の為の寄付として新たに発足したが、各クラブ会員50名につき1名の割で恒久基金（ベネファクター）をお願いしたい。

活発な質問の後、細野次期ガバナー補佐より講評があり有意義な分科会を終えました。



第 8 分 科 会

リーダー	次期米山奨学委員長	藤本 博之
アドバイザー	バストガバナー	加納 泉
アシスタントリーダー	次期西尾張分区ガバナー補佐	大森 克孝
	次期米山奨学副委員長	加藤 知成
	次期米山学友委員長	鈴木 茂久
	次期地区副幹事	浅井 隆宣

今年4月、米山記念奨学会が設立されて以来、ロータリアンの寄付金を主な財源として近年では年間の奨学金支給額は約20億円、奨学金支給者数は類型で1万人を超え、国籍別では94ヶ国になりました。当初はアジアの方だけでしたが、今は大学推薦制度をとり広く世界から募集しています。重点目標として

- (1) ロータリーの奉仕の精神に基づいた国際理解と親善の促進。
- (2) 学業、異文化理解、コミュニケーション能力を備えた優秀な奨学生、研究者の支援。

(3) 母国に限らず国際社会で活躍し、世界平和の創造と維持に貢献できる奨学生の育成。

(4) わが国の留学生事業の目標である「知的国際貢献」への協力、貢献。

を掲げています。また、上記目標を達成するために奨学金による経済的支援だけでなく、世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援をしており、奨学生や大学からも期待され、その強化が望まれています。

4人のスピーカーのお話の後、40分間の質疑では、各クラブの状況に沿って活発な質問がありました。



第 9 分 科 会

リーダー	バストガバナー・次期地区研修リーダー	内藤 明人
アドバイザー	次期名古屋西分区ガバナー補佐	青島 邦夫
アシスタントリーダー	次期地区クラブ奉仕副委員長	加藤 俊夫
	次期地区社会奉仕副委員長	榎原 邦彦
	次期地区副幹事	高木 哲朗

●内藤明人

若い頃から経済界の色々な立場で活動をしてきて大変忙しい日々を過ごしています。忙しい中に奉仕活動をする事で社会に貢献する事、ここで心の安らぎを得るこの事が人類の特徴であり、人間の特権だと思います。ロータリーを生活の一部にしてロータリアン自ら良い社会を作るリーダーとなりましょう。

●加藤俊夫

奉仕活動は都市型と地域密着型とに分けられ、地域に密着した奉仕活動が取り組みやすく又、事業の安定を図った上で余裕を持った奉仕活動が望まれるのではないかと。

●榎原邦彦

奉仕の機会に関する10項目について解説をされ、ロータリーの社会奉仕はRI会長方針の「慈愛の種を播きましょう」に基づき各クラブの独自性を出した、そして地域に密着した活動を展開して下さい。

●青島邦夫

ロータリーは奉仕活動が柱であるのでガバナーはガバナーの、各クラブそれぞれの、そして個人個人の奉仕活動についてガバナー補佐訪問を通じ皆さんと共に考え、ガバナーとのパイプ役をしっかりと果たしたい。

●岡部快圓ガバナーエレクト

今回アメリカのアナハイムに出掛けて研修を受けてロータリーは素晴らしい組織だなーとつくづく感じました。何故アナハイムなのか、それは国境を越えて、宗教を越え、人類、民族、考え、あらゆるものを越えてロータリーがある、そのことをガバナーエレクトに伝えそしてそれぞれの地区の会員に伝える、そのような使命を持って私は一人一人ロータリーの会員に接するつもりです。皆さんもロータリーを永く続けてロータリーの本当の良さを味わって下さい。



RI-2760地区 2002～2003年度 研究グループ交換（GSE） 派遣メンバー募集!!!

国際ロータリー2760地区
GSE委員会

来春!! 「オーストラリア」へ!!

研究グループ交換（Group Study Exchange）はロータリー財団事業の一つとして1965年に発足した非常に重要な国際交流プログラムです。若い実業人及び専門的職業人に他国の職業と文化について交流と親睦の場をつくり真の国際理解を促進することを目的としています。今年度はオーストラリアと交流予定であり、今回派遣メンバー候補者を下記要領にて募集いたします。

各クラブの皆様にご推薦ご協力をお願いを申し上げる次第であります。



2002～2003年度 研究グループ交換派遣メンバー募集要項

1. 派遣先…………… R I - 9520地区。オーストラリアの4つの州（南オーストラリア州、ビクトリア州、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州）をカバーする地域。
2. 派遣期間…………… 2003年3月22日～4月19日までを予定
3. 費用…………… 往復航空運賃はロータリー財団、滞在費はR I - 9520地区が負担
4. 派遣人員…………… 4名（応募者中より選考委員会で決定）
5. 応募資格要件…………… ①ロータリアンとその直系親族を除く日本人。
②愛知県内に居住または勤務する25才から40才までの健康な方で性別は問いません。
③専門職業の実務経験が少なくとも2年以上ある常勤の正社員で、帰国後もその実務に従事する見込みのある人（公務員・教職員も含む）。
④ある程度の英語ができる人。
6. 応募方法…………… 次の応募書類を最寄りのロータリークラブへ提出。
①メンバー参加申請書（所定用紙はクラブにあります）1枚
②写真（カラー5cm×5cm）1枚
③作文（参加申請書3頁に示す「チームメンバーの意図を表明するエッセイ」として400字詰原稿用紙2枚程度に応募の動機や意欲のほどを書いて下さい。）
7. 募集期間…………… 最寄りのロータリークラブへ2002年9月末日までに提出願います。

詳しいお問い合わせは

国際ロータリー2760地区事務所

〒450-0002 名古屋市中村区名駅3丁目12番5号 竹生ビル別館2F
TEL 052-541-2760 FAX 052-541-0050

会長賞

ロータリアンの皆さま：

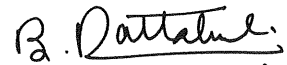
私たちの世界で永続的な平和を達成するには、私たち一人一人の仕事、国際理解と親善の精神を生み出すために少しずつ長い間歩み続けることが要求されます。そのために、私は全ロータリアンに、ロータリーへの個人的な投資と誓約をお願いしたいのです。

私たちは幸いにも、自分のクラブに、自分の職場に、地域社会に、そして世界中ありとあらゆる場所に慈愛の種を播くよう私たち全員に奨励する組織に所属しています。心を広くもち、ロータリーを通じた奉仕の機会を、慈愛に満ちた心で進んで受け入れていただくようお願いいたします。

有意義な変化ならびに平和は、上意下達ではなく、草の根レベルから芽生えなければならないと私は信じています。それゆえ、2002-03年度会長賞は、ロータリアンとロータリー・クラブの草の根レベルの活動を奨励するものです。あなたのクラブで、親睦を促

進し、会員を増やすために、他の人々の心情に慈愛の種を播きましょう。あなたは、ロータリー・財団のプログラムを通じて慈愛の種を播くことができます。あなたはまた、四大奉仕の各部門で慈愛の種を播くことができます。私は自分たちのクラブにおける可能性をはかり、見極めるロータリアンの洞察力と意見を支持し、あえて、ロータリー・クラブに対して特定の業績を指定していません。あなた自身クラブとしての独自の目標を定め、取り組んでいただくよう求められているのです。

2002-03年度、全ロータリアンに向かって私が強くお願いしたいのは、私たちの周りで、そして世界中ありとあらゆる場所で平和を培い、人々の生活を改善するために慈愛の種を播くことです。


ビチャイ・ラタクル
2002-03年度RI会長

資格基準と提出期限

クラブに対する表彰

2002-03年度会長賞の表彰を受けるためには、クラブは以下の目標を達成しなければなりません：

■あなたのクラブの年次会員増強目標を達成する（クラブの2002-03年度会員増強対策は、会員の純増率および退会防止率の向上、新ロータリー・クラブの提唱を含め、国際ロータリーの全般的な会員増強目標と一致するべきものとします。）；

■ロータリー財団のプロジェクトへの財政面で支援に参加する；および

■四大奉仕の各部門当たり少なくとも1つの活動から成る、よく計画されたプログラムに着手する：

●クラブ奉仕 ●職業奉仕 ●社会奉仕 ●国際奉仕

定められた期間内にこれらの目標が達成されましたら、申込書（900IB）に漏れなく記入し、あなたの地区のガバナーに送付しなければなりません。ガバナーは申込書に署名してあなたのクラブの活動が完了したことを証明し、2003年4月15日までに米国、イリノイ州、エバンストンのRI世界本部に転送しなければなりません。

地区ガバナーに対する表彰

地区内クラブの50パーセント以上が賞の受賞資格を得た場合、地区ガバナーに2002-03年度会長賞の受賞資格が与えられます。受賞資格を得たガバナーは、この業績に対して特別表彰を受けます。

会員増強・拡大賞

会員増強と拡大はロータリーの活力源です。従って、私たちのクラブまたは国際的組織の長寿を約束する決め手は、新しい、資格ある人たちを私たちの同志として迎える能力にあるといえるでしょう。私たちの運動の進展は、新しい効果的なロータリー・クラブを結成し、その成長と発達を育成することによって奉仕活動を更に幅広いものにすることにあります。

ロータリーの拡大は、地区ガバナーに課せられた責務ですが、一方、資格ある、新しい会員を推薦する必要を満たすのは私共一人一人の責任です。これは会員身分の特典に付随する義務なのです。

他の人とロータリーを分かち合うこと以上に喜びをもたらす活動はないですが、RI理事会はその実践を促す要素を加えました。理事会は既存クラブの会員増強、現クラブ会員の退会防止、新クラブの結成を含むRI会員増強・拡大賞プログラムを設定しました。会員増強目標を達成した、あるいは、その目標を突破した地区もまた表彰の対象となります。次にプログラムを略述します。

..... 指 針

目 標

毎年、国際協議会において、地区ガバナー・エレクトは、次期クラブ会長と協力して次ロータリー年度の会員増強目標を設定するよう要請されます。地区ガバナー・エレクトは、会長エレクト研修セミナーに、次期クラブ会長と会員増強の重要性を協調する時間を組み入れ、各自のクラブの会員増強目標（純増パーセンテージ）を設定するよう要請します。国際協議会では、

各地区ガバナー・エレクトは、包括的な地区会員増強目標（全クラブを通じての純増パーセンテージに加え、新クラブの数）を発表することになっています。

実施期間

年次RI会員増強・拡大賞プログラムの実施期間は7月1日から5月15日までです。

- ガバナー・エレクトは7月1日までに地区の目標をRIに報告しなければなりません。
- 各地区の基礎会員数は、（1996年11月の理事会決議第160号に従い）毎年9月30日までにRIに提出された地区内のクラブの7月半期報告に基づいて決定されます。

表 彰

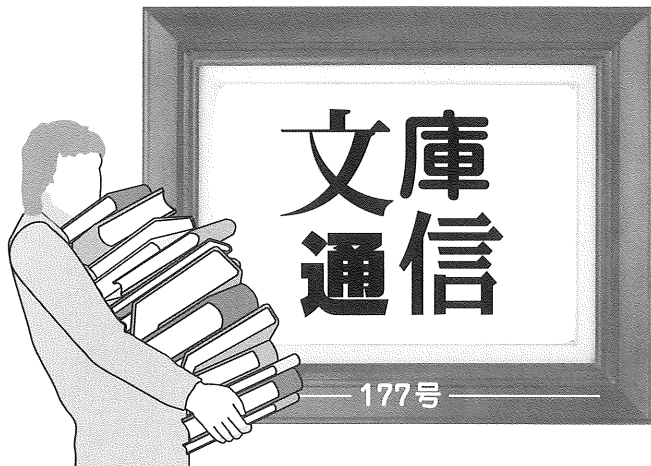
5月15日以後、各地区ガバナーは、次の事項をRIに報告することになります：

- 地区内で最も高い増強率（パーセンテージ）を示したクラブ
- 地区内で最も多くの新会員を獲得したクラブ
- 地区内で最も高い退会防止率（パーセンテージ）を上げたクラブ
- 新クラブを提唱したクラブ

これらクラブには、それぞれRI会長が署名した表彰状が贈られます。加えて、5月15日までに会員増強目標を突破した地区のガバナーには、RI会長から、特別地区会員増強賞が贈られます。

新しい仲間

有田 洋一（名古屋西） 大西美智太郎（名古屋西） 木原 喜造（名古屋千種）
松永 茂夫（岡崎城南）



新年度にあたり改めてご挨拶申し上げます。

本ロータリー文庫には、常々一方ならぬご協力、ご愛顧を賜り衷心から感謝いたしております。今さら申し上げるまでもなく、[ロータリー文庫] は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に設立され、32年の歴史を誇る全日本ロータリアンの資料室です。

ここにはロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万8千余点が収集・分類・整備され、皆様のご利用に備えております。

ロータリーの研究や諸活動のため、ぜひご利用くださるようお待ちいたしております。

利用方法

文庫資料は自由に閲覧できますが、電話や書信によるお問い合わせも承ります。お問い合わせは間接では要領を得ない場合がありますので、なるべくご本人から直接お願いいたします。

文庫資料をご希望の場合は

- ・発行先に在庫のある資料については、発行先をご紹介します。
- ・絶版のものは実費（1枚20円＋送料）でコピーサービス致します。
- ・重複資料はご希望により無料進呈致します。
- ・ビデオテープは実費（1巻800円＋送料）ダビング致します。

貸出し

- ・視聴覚資料（スライド・フィルム）は予約制（申込用紙有り）で貸出しいたします。

登録資料の紹介

- ・「資料目録」をクラブ事務所に備付け用としてお送りしてありますので、ご利用願います。「目録」をご希望の場合はお申し込み下さい。
- ・「ガバナー月信」に「文庫通信」欄を設けさせていただき、皆様のご参考になるような資料の紹介を致しております。
- ・「ホームページ」を開設しております。分類別に検索可能です。

ご寄贈

個人の著作、クラブ発行のもの、地区発行のもの等々、いずれも内外を問わずロータリーに関する資料をご寄贈願います。文庫に保存して皆様のお役に立てさせていただきます。

ロータリー文庫
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館/午前10時～午後5時 休館/土・日・祝祭日

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

日下 立（安城）

表紙を語る

国宝 古事記（3帖）

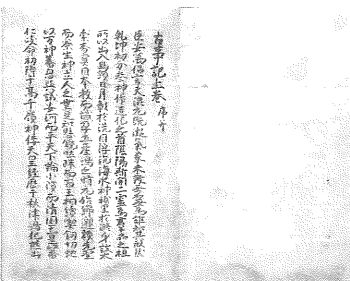
南北朝時代 応安4・5年（1371・2）書写
名古屋市中区大須 真福寺宝生院（大須観音）蔵

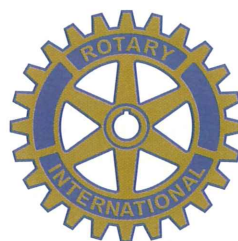
『古事記』は、奈良時代、和銅5年（710）に成立した歴史書です。『日本書紀』とならび、日本の古代史を解明する基本文献で、二つあわせて『記紀』と呼んでいます。

上・中・下、三帖にわかれ、上には神代の話、中には神武天皇から応神天皇まで、下には仁徳天皇から推古天皇までの歴史を記録しています。特に上巻の神話の部分は有名で、天照大御神の話や、八咫の大蛇・草薙の剣・日本武尊の話など、いわゆる日本の神話をたくさん載せていて、壮大なロマンに満ちた文学書というべき内容です。

『日本書紀』にくらべ、『古事記』の写本は数が少なく、真福寺（大須観音）のものが最も古く、三冊そろっているため、国宝に指定されています。江戸時代の国学者、本居宣長が『古事記伝』という大注釈書を書きましたが、真福寺の『古事記』を知ったときには出版が始まっていたので、あまり詳しく触れることができませんでした。

（名古屋博物館 学芸員 鳥居和之）





ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760

国際ロータリー第2760地区
ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内

TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023

URL : <http://www.rotary2760.org>

E-mail : governor02-03@rotary2760.org
